

二編 もとくと

二

松毛  
勝毛院

南總里見八犬傳第三輯卷之三

東都曲亭主人編次

第廿五回

情を含く濱路憂苦と訟ふ  
奸戯告て額藏主家へ還る

再説墓六へ水が漏れ一寸ゆく。飽ゆぐ信乃は又抱き且つ眼を  
開いたみを抗足を勤らむと身もこれ又夕り一かく扶起されと自詮を誇り。  
かくて六日れへ再び生こう。危うくと傍ある柱ふ携く立あられハ信乃ハその  
本復の速さを歎びく。俱下河辺の小屋を出れば土太郎ハ左母二郎を  
の乗せし船をあわてよせし。當下信乃ハ處へく。つが單衣を被て刀と腰の  
きう程よ左母二郎ハ墓六がみを携く船と乗せ。その恙あれと祝ちうれ  
或ハ水中の動作を向或ハその苦惱を告て果た笑声高くなるとて興

と岸を離るひ。前愆さかのけ。前愆さかのけ。再び網あみをもつととあく。躊躇ちう  
前面まへ著きせく。獲との雜魚ぞうぎょを魚番うふばんより移いだせ。なり不餘ふよれるをも。條じょう  
枝えだ小母こめをも。これを蒼竹そうちくの真中まんなかに括くわく。信乃しんのうと左母さくめ二郎じろうと。それ本  
末ほんを相携あわせ。暮六むろく、件くだんの二人ふたりを先まへに持も。腰巾こしわん著きを搔撓かづ。多少たさうハ  
ちよどき土太郎どいたろう。紙捻しじんをも取とらへ。今宵いまの辛苦さいご錢せんありべ。この土太郎どいたろう、  
何船なんせんの傭くわく。生活せいかつもまれど。一夕不住いつしゆの癖者へきしゃもれ。豫よく墓は  
六ろくふ相譚あいだんれ。信乃しんのうを亡なきんとつゝ。かくすかくすの兩人ふたひとハ一町いちまちあまり先まへ  
立ち。信乃しんのうホガかが死死折おり。何なんゆやうん密語ひきよめ。又先まへあり。兩人ふたひとを  
遙とおか後方こうがを見えたり。移いだりもぬゆきを待まつふ。墓六むろく、躊躇ちう走ままわる。  
うち連つれ立たつく家路いえじゆよりも。十七じゅうしち日の月つきハ出で。戰たたかぐ青田せいでん小風渡おほる。  
夜行よあゆハ殊こと涼すずく。うち相譚あいだんりゆ。網あみをも。信乃しんのうホのうりゆ。

今宵の怪我ハ生涯。復あらまどれ不覺あり。龜経ホシあらきあが。  
ひやうどもひよく漁獵を禁る。あらん努力秘そぐ。秘そぐと真一サウム  
口を鉗め。既みく庚申塚のほとりに近くある。宿小一軒の物を背負て。  
前回よりあらぬあきり。引提うち挑灯ハ紛べくもあらぬ背ぬよ。そ  
と又けふ墓六をゆく。あどてやかま達かり」と曰ハ背ぬも  
小腰を折め割籠の準備せざり。故ゆゆうと時を移す。といふせきも  
更ぞ眼を瞪。噫。鈍や。白物们。口が出来と見炊姿ふ云々とひふふ例の  
籠耳脱せし。今みくりてあらとも。何ゆせんと陽腹をもく。皆共の傍み  
里ふ還。まゝ時ハ過ぎ。左母二郎ハ墓六を。そが門邊まで送り  
つ。夜の深。さればとく。裡面より入。信乃。も。叮嚀。別を告。翌の啓  
行を祝。あらが宿所へかく。去ぬか。墓六の奴婢一両人呼起させく。

護の雜魚を肴とす。又燒もほり程小龜條が温る酒もよりたり。一  
六件の奴婢と就寝す。夫婦ハ信乃を納戸又招く。許我までの後者  
ゆき。額藏を遣せばとも。もや臥ふ。或呼よせく。饗食心態。酌を執  
ら。此彼四人圍坐す。笛別の盃を邊うけり。既よ酔うち比小墓六へ  
龜條。百鬼あまうの銀とうぬさせ。路費ふとく。信乃よ遡む。その  
真ちある。ようべ年來よみ似べくもあまき。さて路次のる。許我へまく  
てある。なまく成うち相譚ふ。少く夏の夜の短く。もや丑ニマアリぬべ。  
霎時へとも目睡ふ。ヨリ道中堪が。かうん。とく。睡ましとひ。龜條が  
言の葉成立。ほく信乃額藏ハ告別。もく。ちゆく。が卧房に入り。ぬ。あの  
うれ奴婢ハいだごとく。皆熟睡せ。もうちもなく。濱路さへ。宿渡りぬとく。  
甲夜よう子舎よ臥す。當時墓六。神宮河すく。熟計す。信乃を水中か  
注せ。既よその意成きよせ。渠ハ必定彼宝刀を。捐昏とく。ふ凝ひ  
き。ヨリとく。も待よび。見せんと燈燭を。手をすく。ほどとへ引よせ。  
珍緩ぐ。拔放。夜目。あれハ焼刃の色定。少く。こゝども。現銳刀と。かば  
したふ。鞆の内。よ水滴り。席薦の上。ふ置く。露を。墓六ハ凝ひ。拐弓  
弓。鞭。く。よろ。奇。ある。まかこの刀。拔放と。水氣あり。殺氣含て。うち  
振れ。降。もく。雨。よ異。あく。まの。奇。特。ある。よ。村兩丸と名づく。き  
。と。年来。抜け。ども。又。今。吁。よふ。と。吁め。で。う。奇。入。こと。賞。嘆。し。そ  
雷を。りく。遍。欵。指。ふ。塗。額。よ。塗。り。う。夫。を。見。ま。の。小。龜。條。も。物。体。あ。る。と

指頭り。杖（あし）を戴く一滴水（いつしうす）へ是神宮の河水（みず）。彼左母二郎（あむごとねじろ）。奸智（あらわ）。長（なが）。も（も）が刀と件の宝刀と。二方替（かたかわせ）。後（あと）必墓六（むつ）。拔放（ぬけはな）。人  
と謀慮（めうりょ）。そ（そ）が鞋（くつ）少許（すこし）河水（みず）。決（き）をへまく。も（も）が刀を納替（のりかわせ）。あ  
村雨（むらあめ）の刀尖（とげ）。水氣滴（みずけしづ）る。と（と）へば。と（と）も。と（と）て墓六（むつ）。天（あま）。喜び地（ち）。喜び。刀を納（のり）。うち戴（さわ）。二十年來懸念（けんねん）。村雨の宝刀（たからのとぎ）。ひへり。諸願  
成就（じょうじゅ）。唱（うた）れ。亀條（かめじょう）。も（も）うち。念（ねん）。かく。うで。ふおり。のう。のう。隨（ま）。も（も）うのま。嘉  
酒（よし）。今一度遇（まつ）。と勸（すす）。ハ墓六（むつ）。盃（さか）。揚（あ）。今宵（よし）。大事（だいじ）。と。あくろ  
あく。あざ。醉（ゑ）。で。小喫（さく）。額藏（おほくらわ）。彼密事（かれみじ）。を。説示（せつし）。り。や。と。向（むか）。亀  
條頤（きよ）。さ。よ。そ。こ。ふ。ゆ。り。わ。ど。う。甲夜（とうよ）。信乃（しのぶ）。ホ。が。と。ま。る。小。彼奴（かれのやつ）  
竊（くわく）。招（まわ）。よ。せ。如。此。こ。と。説示（せつし）。固。様。こ。小。あ。ら。れ。バ。そ。死。真。ふ。兼。て。一。簇。よ  
及。が。ど。き。ろ。済。果。く。立。ゆ。り。信乃（しのぶ）。が。敵。ひ。不。足。ま。と。も。騙。よ。術。う。と。俗  
ゆ。り。よ。あ。ら。ふ。運。の。向。と。見。あ。と。ハ。大。き。ハ。事。成。え。ん。よ。一。や。額。藏。が。く。ふ。乗。と。ぐ。  
反。轂。の。あ。ま。ぐ。と。く。も。や。そ。の。宝。刀。を。畠。奪。れ。ば。あ。ま。ぐ。ふ。損。ハ。あ。れ。ど。と。よ。ま  
あ。れ。れ。ん。や。と。潜。め。死。告。墓。六。ゆ。り。く。寔。ふ。然。あり。宝。刀。を。ぶ。畠。る。信。乃。と。ぶ。出。を  
額。藏。ハ。殺。され。く。信。乃。ゆ。患。あ。ま。ど。と。も。亦。唯。これ。を。疑。く。訟。る。と。あり  
とも。年。来。信。乃。と。額。藏。が。睦。う。ね。ハ。入。僉。あ。ら。ん。よ。う。て。額。藏。ハ。私。の。怨。よ。よ。と  
信。乃。を。害。せ。ん。と。せ。り。あ。ら。ん。これ。ハ。故。よ。あ。き。と。ひ。ら。ん。かれ。ハ。陳。す。ふ。辭。あり  
これ。ハ。是。足。萬。一。の。活。路。を。造。る。の。も。爲。ひ。る。度。が。ど。く。な。く。ん。や。遠。く。き。と。額。藏。が  
吉。左。右。を。せ。ん。の。も。旨。く。と。う。も。鳴。く。と。舌。を。吐。く。口。ふ。り。我。當。飲。ハ。現。盜。上。戸  
を。あ。る。燒。の。肴。荒。と。暴。食。ひ。果。ハ。茶。碗。ふ。あ。と。と。篩。せ。篩。れ。と。喫。小。



る。かく來る日を俟とて、賺せば濱路ハ目拭ひ左のまへ偽りあり。下  
さう來去とあり。でうかく來りづれ。龍鳥の雲井を慕ひ。そあ  
友をありハあり。丈夫の故郷を去る。その祿をありハある。さてもよぶ彼  
二ふた愛敬憎惡定め。ちん身を鬱悒くありひ。大約此度乃起  
行も。牛一頭の還て娛樂。牛くや人當て代よとせむ。かれバトギ  
ち成去。いの日ゆ。還てゐる。今宵限もの別よとせ。コトハ親  
ちらあ。そあ身もあり。あきとも現在の二親に至れ。告め  
度み傳へ。實の親ハ煉馬の家臣胞兄弟もあらず。とぞうと傳ひえて。そあ  
姓名ハ定う。さとく。養育の恩義を今ゆ。か化す。よひはすねど。  
産の恩も亦高かつ。つゞく實の親のう。あくまくされど女子の甲斐文あく入  
で告げれ。あく後。身もどうかお城をす。目睡ぬ夜の明ぐの夢をも。か

と願言ふ。祈らぬ神ハあらず。斯名ひく年月を送り。とも苦一矢。小去歳の  
四月ハ。ひき。豊嶋煉馬の両家滅亡。そあ家隸老黨も。皆送り去  
れ。と風せ大きあざれ。さて。親同胞も。ソハ脱れ。とソハい。  
衰き。すか。もあれ。嘆た。乾ぬ袖の片あれ。親より包む憂苦勞。  
切く。あん。身から。親同胞の名を。知り。そあ陣歿の迹を。も吊る  
よき。外。世。限。連ま。良人。何。隠。え。鑑。人。目  
さんと。よ。の。戸。鶴のそら音のあれ。と。そ。の。折。わ。れ。を。稍。ゆ  
ち。つけ。ハ。を。や。母。ぬ。跟。と。く。遠。迷。の。く。退。れ。去。歳。の。七。月。の。比。う。り。れ。  
これ。よう。後。川。堰。中。ハ。絶。れ。ど。下。水。か。路。か。心。  
の。誠。の。朝。あ。夕。あ。身。の。人。忌。も。あ。世。よ。生。富。榮。本。させ。あ。せ。と  
禱。ぬ。日。き。う。れ。の。死。心。つ。れ。も。限。あ。妻。を。乗。身。が。伯。母。へ。義。理。缺。



甘落春  
かみとてう  
ヨルを惜め  
翁のね乃  
すまえさとの  
あつまもうれ



あー。とふもかくも形ある。が身むろの死ある。ひ絶く。蜀りゆうん。さよぶ  
道中恙う。折々烈れん日やけせど。許我へ。系よく名をも揚家を興  
し。冬籠北山下風吹く。風の便ひあせく。筑波の山のこゑくゆ  
恙もあくて君あり。とゆふのゆく候りてん。今より弱り。王の緒の。えあ  
これを。との世の。よ。憑むハヤギ。又ぬ冥土の。二世の契ア六必よ。ゆあろ  
え。夜とセまふ。と墓ある。を木綿襷掛てぞ製。願言ハ怜恤。見えても  
恍惚子なる。未通女ある。の哀れあり。信乃も有撃ふうち。芝折れ慰め  
ゆく。魚附の。入り。よもう。とけり。折々告る八声の鶏。小信乃ハ心を  
あくの間ある。二親めざす。あはなん。とく。とひそぐ。立生ハ濱路ハす。而く  
立あ。天も明ハ孤よ。啖うん腐鶏。の末明よ。鳴く。佚を遣つ。それハ恋せ  
き。草また。是ハ旅中。妹妹の。よ。鶏も鳴が。天も明ド。曉が。人の目を

覚ド。恨。の鶏の音や。よ。逢坂の。あ。宵ハあ。ゆり。す。闇ハ。よ。在  
李。月。果敢。と口實。とほ。とほ。外。咳。障子。とほ。と  
う。敵。鶏が謹。ゆ。み。覚。り。だ。と。ゆ。起。声。額。藏。う。信  
乃ハ。宣。れ。と。遠。く。應。殘。は。額。藏。は。庖。偏。の。か。ふ。退。死。疾。此。の。隙。小。と。出  
一。遣。る。濱。路。ハ。臉。泣。腫。一。圍。た。よ。見。之。と。涙。又。霞。む。挾。山。形。紙。張。の  
久。壁。ふ。身。を。よ。せ。く。ち。が。臥。房。小。泣。悲。れ。ハ。死。別。よ。生。別。ふ。ち。死。れ  
あ。呼。四。手。あ。か。も。此。の。未。通。女。い。ま。鴛。鴦。の。衾。を。累。ね。ぎ。連。理。乃。枕。を  
並。つ。ど。く。え。情。百。年。の。夫。婦。よ。勝。う。少。ふ。信。乃。ハ。情。小。引。き。そ。の。公。放  
動。さ。ご。と。く。そ。れ。情。ふ。後。く。男。女。別。あ。趣。成。ゆ。う。夫。色。界。の。迷。津。質。不  
肖。を。差。別。へ。江。湖。許。え。の。少。年。輩。一。と。び。この。岸。小。臨。く。溺。さ。う。と。あ。つ。あ  
き。少。い。無。ま。を。今。こ。の。美。夫。節。婦。あ。濱。路。が。恋。慕。と。樂。ま。く。淫。せ。ん。と。ふ

あふと信乃が嗟嘆へ悲しき傷を。濱路が情ハ云不得べ。信乃が如たハりよ  
り稀く間詫休題。此の曉天額藏ハシモテキ起坐。火を打水を汲炊  
れ。子も信乃又飯を勧め已もなし。共侶小行裝。程小奴婢。ボウ大  
きく起さう。かくて信乃額藏ハ支度形の如く整ふ。アト夫婦が骨を成まん。  
明六の鐘ハ空かど。夫婦ハ宿酒醒まやありけん。いま。臥房を出でうけ。  
信乃ハ二の朝涼みと心ひそむせむれど一言半句も辞せだく。生てゆくも  
死ゆがく。多臥房ふ立よるも。ちん目を覺えまく。只今渡足仕とづ。あん  
暇乞をやまむ。信乃まくい。見タク。と声高す。みえせ。墓六。夢  
ごろ。小ゆれ。と心け。信乃ハ再び声を立す。伯母ハいま。覺えま  
き。信乃が渡足の暇乞。すみゆい。とゆま。六。龜條寝惚一聲。あ  
まや。背ぬ。共門。生く。衆皆名残を惜え。祝。要時散動を危。宿  
ゆれ。孤く。と心け。と信乃ハ心を便果。外面。退く。濱路。有繫小泣

顔を人ふ見られん。ものぞく。立ゆる生。細サ。障子を開く。目送り。辞へ  
絶く酸鼻む。妻ふ別。旅衣。今たち初。信乃額藏を送る。奴婢。忽忙く。  
背ぬ。共門。生く。衆皆名残を惜え。祝。要時散動を危。宿  
墓六。龜條ハ。昨夜深。熟醉。寝。就。朝日高く昇る。比。女  
童。小起。信乃ハ。と向へ。云々。明六の鐘。共。啓。行を。おひれ。と  
奴婢。小。告。小呆果。夫婦。目と目を。あり。う。め。不けり。と。之。とも。愧る  
色なく。舌。も。唇。さあ。ん。み。汝。ホ。も。あ。く。口。ま。ゆ。告。が。ま。し。信。乃。も  
亦不教。苟且。う。起。行。告。別。せ。ぬ。と。や。あ。と。高。声。合。一。く。敷。團。バ。否  
彼。人。ハ。臥。房。小。立。よ。と。云。云。と。告。ま。い。ふ。ゆ。を。孤。く。と。心。タ。ひ。れ。原。來。寐。言。ぐ  
美。せ。飲。と。一。入。が。り。堪。ね。て。衆。皆。咄。と。笑。ふ。小。う。ん。夫。婦。ハ。い。よ。腹。立。く。此  
奴。ホ。何。が。あ。り。う。れ。と。ふ。か。信。乃。が。る。う。と。り。バ。取。持。貞。丁。そ。う。う。る。後。そ。う。う。

遍掃出一門へ塩花揮ふや。と囃著や坂東訛。喧立と。音嵐鳴子の音  
群雀驚くが如。僉避う。そが中小濱路の。この日も病て臥房を出。心持死ぬ  
べあ。あらと。著うちもあらと。二親ハ乞す。も。養老女兒と死一  
て。やうし。又ゆ。宝の山出世の様中絶ん鍼よ藥餌と譲り。されず女兒ふ  
使る。愛み。わざと勢と利小就ち。のちせ祈禱。親の慾。そ無懃る。時又  
文明十年六月十八日の朝。まこと。小大塚信乃ハ年來の志願。かゝる。時到。已  
額藏をねく下縁ある。許我の侍所へ赴んと。この年。信乃ハ十九歳。額藏ハ  
廿歳。さう。抑この両雄ハ既小同盤合體。義を結び誓を立。艱難與  
相救ひ苦樂を等くせんとの。まろハ信義の鄉。あり。身ハ亦汚吏の家小  
在。り。人目。ぢよ。ハ睦。かき。額藏ハ信乃を識。王。信乃ハ額藏。を。肩ともせた。  
ま。る。え。ん。ち。ら。り。れ。この故。奸智。み長。つ。墓六。も。狐疑。ヨヌ。亀條。も。まぐ。額藏。成疑。り。密

議の席。も。は。よ。せ。く。此度。信乃が許我へ。後者ふとく遣せ。や。な。不謀る  
うあれ。ば。あ。う。かれ。ハ。信乃ハ額藏。が資。よ。よ。く。害。を脱。き。至。異。小。夥。の。事。を  
送。れ。り。こ。の。よ。行。ひ。易。れ。よ。似。く。甚。難。う。假。染。の。不。行。よ。心。小。あ。う。修。り。る。  
色。小。出。辞。小。浅。く。遂。ふ。あ。う。り。き。め。う。う。小。嫌。忌。の。中。小。八。九。年。それ。と。も。人。不。曉  
ら。き。さ。と。え。智。能。の。致。を。所。う。き。ど。も。そ。の。信。そ。の。義。を。神。明。監。そ。天。の。祐。る。ふ  
あ。う。さ。ば。い。も。う。け。ふ。あ。う。と。あ。う。ん。ま。と。ハ。額。藏。ハ。こ。の。年。來。窮。や。信。乃。が。藏  
き。う。の。ら。り。そ。中。い。書。を。借。く。經。藉。史。傳。兵。書。の。類。を。あ。う。と。も。懷。み。又。あ。う。と。と。ハ。草。龍。の。底。ふ  
藏。り。く。草。野。小。出。山。林。ふ。入。る。ふ。も。傷。ひ。人。の。あ。き。折。ち。讀。諳。せ。ば。とい。ふ。と。ち。く。唯  
文。事。の。も。あ。う。ど。木。を。伐。る。と。た。ハ。斧。斧。大。刀。と。も。を。試。み。草。を。刈。と。と。ハ  
鎌。と。く。長。刀。の。技。を。試。み。或。ハ。業。山。子。の。弓。と。り。く。射。藝。を。自。ほ。し。或。ハ。牧。の  
新。駒。よ。う。ち。跨。く。自。然。小。騎。馬。を。習。ひ。う。う。と。も。ど。も。人。と。と。交。え。う。組。そ。れ

膂力あるゝハ隠とべくわあざと六墓六龜篠木ハ僅みこま死のをれり。こうて  
此度中途す。よく信乃と刺る。額藏あらハ叶ハド。その腹心を告る  
あぐ。あれど額藏ハりまごこの條の主命を信乃又密語。而雄は先々之後より里を出離せんとつと額藏がりゆづぶ母の  
而雄ハ先々之後より里を出離せんとつと額藏がりゆづぶ母の  
立よきあら。と説引へ。信乃は。寔不然なり。某ハきのく菩提院へ  
墳塚へこのほりうる畔不あり。日と累る旅あらども。ありて告んとゆふ。  
立よきあら。と説引へ。信乃は。寔不然なり。某ハきのく菩提院へ  
詣。親の墓え別を告一が。とふかく事のえく。ちん方が母序の墓を漏  
せ。既に義を結び。ちん方が親ハシカ親えりで。詣さる。さふとく  
兩人連拉。黎明鵠のほりう比田の畔を右の。三町あら進みへ。き  
往連引続。一株の榎樹あり。このほりう則額藏が母の墓へ當時旅  
みく身やる。か墓六百石成良とせむと乗るかゆくこの田の畔へ壅さる。

ケ且ハ墓石きよ建べくもあらず。かく額藏ハ年十可の時。ようとく家業  
これを歎く。おも。墓碑を建るの資、料えられ。竟見小一計を設く。形の如く  
用意。有。夕潛。件の榎へ攀登り。一條の往連を。その梢まで掛く  
け。次の日。その田を耕す。これを。教馬た怪し。彼小告。此ふ報る。教  
え。嘆せざる。かく。こハ全く。この樹。よ。火の。ある。故。欷。さ。と。樹下。あ  
土饅頭亡者。祠堂を乞ふ。あ。人。から。寺。特。ある。死。人。と。うち。捨。か.  
崇あぐ。と。か。せ。よ。と。畠。々。田。主。ハ。さ。う。あり。近鄰の。莊客们。各。些。の。錢。を  
半。彼。土饅頭。の。頂。少。細。小。る。禿。倉。を。建。立。一。又。每。年。の。春。秋。と。往。連。  
新。ゆ。と。え。復。そ。伐。る。と。あ。そ。底。彼。此。又。は。住。ゆ。と。詣。る。人。え。れ。ば。誰。り。ふ。と。ハ  
あ。この。神。へ。婦。人の。諸。病。を。癒。し。と。正。しげ。語。り。つ。と。禱。る。み。果。と。利  
益。あ。よ。と。この。墳。を行。婦。塚。と。唱。う。さ。う。か。よ。殘。忍。無。慙。の。墓。六。あれ。だ。



衆人渴仰の応報小あそとぞあり。崇あそせどとやうひえんを下め米倉と建る  
とれ。禁ふ。ひきせす。あらひゆく。おとこひゆく。  
とれ。錢を出へる。莊客们よ米一俵充とせけり。寔は額藏が計る所。一点も  
違ハざる。母の墳塋を喪ざるのみまだ。遂に田中又齋食を亡魂の飲ひまふ。  
推量らしき感あく。是ハこれ三尺の童子の智恵小成るのみ。亦孝感  
のあらわし。おもてむか呵あるべ。抑この一奇異ハ信乃が八房の梅と同日の  
談ゆく。事ハその前年より。さう紙今を下めこと小説せらる。是より後乃  
物語。益く額藏がる不及べあり。題了間詰再説。信乃が行婦の墳の事。  
豫と使け。今ゆく。母の薄命。子の孝感。口とハ不及と心すよ。先  
額藏を先立。共侶と頼をつれ。祈念の中不懐。舊の涙を禁めかねり  
け。かくあぐれ。あぐれ。兩人齊一身を起し。終てぞゝる鳥の巣  
鴨を左邊小見え。跡へ獨さぬ石神井の流。添す。西ノ原田畠を過る  
栗橋の驛。宿。この如き。許我の里へ。その途四里。足づりけり。莊  
官が入を。跟さず。と。豫と。ハ途も。聊り難談せ。多と。も  
さく。も。疑ふ。と。辛め。相宿の旅客も。うろと。兩人心を安  
く。も。絶え。久れ。閒談。共。長途の疲労を。おぼえ。當下信乃と。額藏。よ  
神宮河の夏の趣。墓六。が為体。土太郎が。るまえ。あもあく。告あう。額藏  
竹。と。小頭を傾げ。そへ入水。假託。和君を。亡ん。と。謀。おもん。危う  
い。と。驚嘆。信乃。又且く。尋思。害心。かくの。ごく。おもふ。又何。の故あく。  
彼。人。年來懸念。宝刀の。おもひ。絶え。こよ。紙。許我へ。遣す。やうん。あ。只

夏の雨。追れ。蓑輪の笠。石濱村。舟。稍うち。渡る墨田河。の  
樹下の涼。柳。下総と人。ひど。あほ。遙。許我の里。  
今宵の宿。りん。と。跡へ。獨さぬ石神井の流。添す。西ノ原田畠を過る  
栗橋の驛。宿。この如き。許我の里へ。その途四里。足づりけり。莊  
官が入を。跟さず。と。豫と。ハ途も。聊り難談せ。多と。も  
さく。も。疑ふ。と。辛め。相宿の旅客も。うろと。兩人心を安  
く。も。絶え。久れ。閒談。共。長途の疲労を。おぼえ。當下信乃と。額藏。よ  
神宮河の夏の趣。墓六。が為体。土太郎が。るまえ。あもあく。告あう。額藏  
竹。と。小頭を傾げ。そへ入水。假託。和君を。亡ん。と。謀。おもん。危う  
い。と。驚嘆。信乃。又且く。尋思。害心。かくの。ごく。おもふ。又何。の故あく。  
彼。人。年來懸念。宝刀の。おもひ。絶え。こよ。紙。許我へ。遣す。やうん。あ。只

賓路を宮六よ遣嫁せんる。汝ちがひ許我へ氣れといひ。ハ可不心哉放させく。  
神宮河はく害せんる汝の謀成らむ。有小弓矢虎穴を脱出。とくハ  
額藏既然うち掉す。否それのみあらど。神宮河の渙獵也。勧めて許  
我へ起行せしも。孰も和君を殺す。のみ宝刀を奪ふべく。所領の田園を  
還さむべく。殿上を皆せんる。そ死りゆきてあるやといつ。昨夕甲夜の苗  
守の間。伯母君が潛ゆ。某を内室又招たよ。額藏よ。此度汝を後者  
ゆく信乃と共小遣をよし。一大事を委んぬ。いといひとぞ。信乃ハ  
吾倚乃住み。あきとあり。ハ過世の讐敵。又渠ハ親の横死と恨みて。  
己が良人を仇と。竊ひ折よくハ寢首を搔ん。ところふ刃を磨と久。そ死まれる  
か。吾倚の。然ばく。又定めゆく。血ぐ血とほれ。一家の恥辱と  
一ト刀小刺殺せよ。死體をふみ。而埋め。渠が両刀を奪ひ。竊よりて事  
果とく。せば。あやの翁。勸めゆく。汝を脅ふと。等閑に  
あうる。汝ハ幼稚と。使ひ熟す。小廝あまぶ。不便よ。吾  
脩ひ。汝の惡報。人の伯母。あき。任を殺す。天のひ。汝ハ  
主のみ。忠義の二字を忘て。もと。も。背みと。遣さん。とく。中  
まう。信乃。疑せ。と。おも。汝が外。この一大事を。任をうか。ハあど。さく  
よ。と。口説ひ。井言ふ利を示す。まう。ら。と。浅ま。とく。とく。ど。氣  
色。あふ。さと。うけ。うけ。ひ。大塚歎。う。迷恨。あ。年來の鬱憤。を散  
き。

さんとこの時う。事成らば娘を賜んとまぐ宣へ。仰く傍ノ身死あり。命も絶く惜ふ。と廻為課せり。と真一色ノ小諾り。久伯母の前歎び大きな。おどり。おとん。おはが折く腰も帶る刃ハ切味公く。此ハ星也。父直作大人護身刀。おせよ。ごくく。おふか賜く。短刀あり。桐一文字と唱へ。銃刀。おれ巴そ。の徳ある。これを汝小貸べ。信乃より。戒告され。認。疑ふ。あふ。人。の。まぬ写ふ。これ。立候。といひ。ひく。遽く。刀の囊の。幼。と。この短刀を授へ。主人夫婦の謀る所。かの。ごく。う。和君を。出。遣す。あふ。あふ。偏。亡ん。と。あ。有。この桐一文字ハ和君の祖父直作ゆの像見。アソ。ここ。見。り。と。さ。一。よ。それ。ハ。信。乃。ハ。左。右。の。み。か。愛。く。と。見。く。額。藏。が。ほ。と。り。小。置。く。嘆。息。し。祖父ハ忠義の武士。を。仰。き。そ。の。女。児。み。く。こ。が。伯。母。ハ。あ。ぐ。く。か。す。で。腹。死。く。あ。き。二。親。の。う。れ。後。ハ。叔。伯。

母か。あ。と。憑。た。の。ふ。う。と。ぞ。人。ハ。り。ふ。う。刀。ハ。こ。と。表。裏。う。仇。の。家。小。男。を。置。と。あ。か。ま。く。ち。う。移。く。謀。を。き。ん。や。こ。ろ。絶。け。の。ま。く。忌。あ。れ。ハ。皆。是。ち。身。の。主。め。賜。あ。り。つ。が。父。未。期。の。教。訓。ユ。コ。ボ。娘。夫。婦。慚。み。志。廢。改。め。く。實。小。汝。を。憐。あ。汝。も。亦。誠。心。り。く。仕。く。養。育。の。恩。義。小。報。へ。よ。又。そ。の。害。心。已。ぞ。く。遂。ユ。禦。伏。ふ。御。う。ハ。宝。刀。を。抱。を。く。と。年。五。年。七。年。養。へ。る。と。も。え。が。お。つ。も。お。え。お。汝。ハ。大。塚。氏。の。嫡。孫。す。る。墓。六。が。職。祿。ハ。汝。が。祖。父。の。賜。え。そ。の。祿。よ。う。て。人。と。あ。と。も。伯。母。夫。の。恩。み。あ。と。ど。報。報。リ。去。と。ふ。と。そ。ま。不。美。と。ひ。ふ。ベ。く。き。と。あ。と。の。理。義。を。そ。と。べ。ー。と。つ。ま。ー。る。の。今。小。符。合。を。先。見。か。く。ま。く。灼。然。う。大。人。ハ。凡。夫。よ。あ。と。ざ。り。け。り。九。年。の。同。居。み。衣。食。え。く。呼。お。の。田。園。を。横。領。せ。と。と。く。こ。ら。づ。弟。ユ。帶。う。物。の。ま。け。と。彼。人。の。祿。と。食。う。あ。と。今。す。と。れ。ら。の。身。退。く。よ。潔。い。且。此。の。宝。刀。幸。ふ。護。て。失。ふ。

至る後、何をう歎を。誰も恨ん天運ちみ循環。青雲の志をゆくべき  
時節到来せり。冀へ大川ぬ。共よ許我へ奈良多。ちい方とひよと力を勑  
し。彼君を佐うべ。両管領も計る不足。豈あらむぞ。と額と合ふ。  
あひびくお説勸き。額藏ゆく沈吟。和君のうハ勿論。某へかう。クモビ。  
墨裏小口が母の終焉。小壯官の殘忍。あはり。恨むべーといが當時某黃童  
うき。巴勢ひりふもせんまぐ。躰くその家の小廝。よせをきく。遂不今日小  
後あり。非義非道。一椀の糧。一領の衣の外。定めうる給銀。うけ。バ。その恩  
到れり。ちとども。共よ走く。こきゆ。亦不哭の奴。うつ。かて。大丈夫とまづ。和君ハ許  
ぎ。美ハ薄うべ。よや恩美ハ高うべ。とも。その家の糧をくり。人とあらず。主  
共よ走く。こきゆ。亦不哭の奴。うつ。かて。大丈夫とまづ。和君ハ許  
ぎ。我へ教え。某へおの曉。袂を分ち。大塚へえどん。めくさと。あハ両件  
の利。某非道の主人。又負ふ。又潰路。心操。昨夕。うか。竊聞。く。  
感。一夕。呼。怜憐。とよ。も婦人の情。通ふ。不慮の行。ある。某竊ふ。これを  
資。く。為。謀。どん。如此。うと。免ハ和君。が。入。ふ。節婦を棄るの惡評。ある。人  
斯計。く。小。謀。く。後。某明。地。身の暇。を賜。主家と辞。く。許我。小余  
ら。今。共。侶。又。走。ふ。勝。も。亦。可。ら。き。や。と。密語。ば。信。乃。ハ。頻。ふ。感佩。説  
得。く。理。あ。然。う。ぐ。あ。ん。身。へ。口。れ。を。撃。す。ぞ。く。還。ら。必。禍。あ。ん。と。陷。め。ぐ。  
莞余と。笑。これら。の。ハ。心。を。と。れ。某。へ。足。ふ。少。許。の。傷。け。く。浅。瘻。を  
負。る。如。く。み。見。せ。立。て。そ。く。ひ。べ。ん。ハ。大。塚。殿。を。撃。せ。ん。と。せ。く。ふ。敢。な。く。も。殺  
立。ら。も。く。撃。ゆ。ざ。の。も。あ。ど。斯。瘻。を。負。ひ。ぬ。と。欺。ぶ。あ。下。夫。婦。も。も。あ。う  
ら。只。某。み。任。せ。ま。と。他。る。ゆ。な。く。説。示。せ。ば。信。乃。ハ。ま。も。く。感。謝。小。堪。ど。う。や  
偽。瘻。あ。ま。バ。と。き。あ。ん。身。ふ。傷。せ。ん。る。心。く。う。を。限。り。う。ど。推。辭。ハ。婦。人。の。仁。と

せられん教ふ悖ひ乍。とりよ額藏歎び。密談既よ果しき。ちゆく衣を引被  
ぢく。霎時寝ふ就よけり。

第廿六回 権を弄く墨宦婚夕を促す

殺戒示して 頑父再醮恥羞む

ちや曉きの鯨音か散馬さとく。兩人齊一起坐。支度形の如く整へ。之そち旅宿を出一と有繫別の惜れバ。額藏ハ天の明果るよて信乃を送せんとく。許我のうえ進んとく。信乃ハ額藏を送りんとく。江戸のうえ還らんと。仰慕と辞讓又々不まき。東天をもみ分け。今ハ送るよ。あく。そがや列松の蔭に立在。額藏声を低う。和君許我へ赴を多ひ。事大は成就せん。某嘗人よ向ふ結城里見の諸大將へ元来。許我殿の御方ある。各自団よ在るより。只脚足の勢ひ威張るのみ。獨横堀史

在村ハ成氏朝臣の家寧あり。賞罰黜陟この人の隨意せどとのみと。と知き。わゆりひゆ。そつとふころ志ゆ。後と告げハ信乃はうち点頭。某もそゆハ豫てよう傳聞。彼如へゑく由緒を述。亡夫の遺志を披矣。この宝刀を獻り用ひれあ。笛。又野水舟横。或ハ左右のあ。阻。或ハ權臣能を捐ミ賄賂。よよ多く人を用ひ。速か。左の。祖父の後もいづく仕へどり。人の明君へ臣を擇く。使ふ。今。の世ハ臣色亦よろしく。君を擇べ。用ひ。身を立んと欲する地。許我殿のみ限。へふ。時宜ふ任せんとゆふ。と向き。額藏感激。現潔。言葉。某も遠き。再會を期。と。信乃ハ左。右。笠。と右。左。直し。然らぶあく。袂を分ふ。盛暑。烈。ス。ふ。愛顧。全。

ハナ傳三車卷三

送よ心緒述文。畢竟ふ東西よ別れ。安下某生再說墓六、亀縫木。既よ  
去の。信乃を出。遣まく。あるをハ公を安くし。且共、侶ふ日等は。信乃ハ許我  
あぐ遣り著けど。途すと額藏が大き。結果ん。額義が為損。返  
返撃ふせしもとも。彼一刀ハ贋物。許我敵へあり。何よ成る。  
そづれ龜忽の罪科脱れ。縛首を刎ら。そとまきかくもあれ。  
ト。死生の死。生て六うるべくもあらぬ。信乃がゆハ後まく。只便あれ。六  
十五。浜路が病著。聘礼物を受く。つまご。幾日も歴ぎ。軍木ぬ。が  
密書。毎日小催促せ。既よ信乃がどど。満て。満て。許さ  
る。あく。とく。濱路を慰め。賺。疾遺嫁。もろみやまく。あく。  
竊。商量。お。又五倍。二が使札。あれり。墓六。忙。封皮を折  
る。と。もか。あく。面談せん。例の袴を出。多ひ。で  
り。とひ。納戸の。赴け。亀縫ハ先。立。衣櫃の蓋。とり。あ。麻  
衣袴。此彼と引。牛。うち被。と。バ。墓六。ハ帶引結び。袴を穿。刀と引  
提。外画。立。五倍。二が使を勞ひ。あん答。ハ某が罷能。生く。あく。べ。誘  
え。と先。立。軍木が宿所へ赴た。け。と。房程。亀縫。立。かうん。かく。や  
あく。と。か。ひ。せ。ば。ゆ。と。ぬ。心から。み。ゆ。り。と。く。消。一。か。る。夏。の。日。北。傾。く  
や。く。ふ。選。と。ぬ。夫。を。つ。く。と。待。と。じ。く。うち。仰。天。よ。夕。立。の。外。降。け。ん。雲  
霄。く。横。よ。と。日。の。報。又。と。遣。嫁。よ。思。む。申。の。時。生。膽。乾。く。あ。う。私。ど。も。  
い。そ。く。選。墓。六。と。汗。よ。塵。埃。を。除。く。と。背。門。よ。の。を。亀縫。ハ。と。て。

航く。出迎へあひてやかくハ邊かり。家ふどぶよ堪がれ。ふ炎火暑さとそと推  
す。量らる。彼方の首尾ハいふぞやと向へバ墓六微笑。被処の一談ハ甚妙。そん  
緩ゆふ譚るべ。そもそも熟一と帶解捨く。汎の麻衣脱更り。端居をきれハ襟  
辺。妻ハ團扇をとり揚ぐ。背のきふ立かり。あひぐを墓六又うつて。龜篠  
措ね殊更。件の一談を忘れ。斯安然とくハとどき。やうづちやあん  
身ふ歎せん。曩裏ふと媒妁許起。今朝稍信乃を遠離する。豫てめ  
苦心を密語。且瀆路が病著。あらもあく告る。軍木ぬ。雙果く。か  
れハ共よ後を。又新婦人の病著ハ重ゆき。ともに。也みえど。婚姻の隆速  
云が一存ふ定め。簸上殿。簸上殿。告べく。且くあよ俟。ちよと。そと。あんと會  
釋。一僕と。あく。ゆれぬかく。俟と。あよ。約。あよ。も。よ。大約一晌あまうゆ。と。軍木ぬ  
かく。あらそり。事の趣巨細。簸上殿。告べく。被人歎び。大きくな。よ。

新婦人ハ病著ム臥リ。とも。昨今のみトテ。サケバ風ひ。ひま。あうん。まうん。第三ハ  
疾迎ト。医療看病等用。替ガタ。湯液を勧ム。ことを即功を奏ム。  
の方より。きく。あとども。主君在城。あらす。ハ。いまだ。この婚姻の願状と。まわ  
ら。且。父兄。まわりて。いま。暮月を。ひま。ハ。晴。あう。婚姻ハ。憚。あ。よ。う。す。  
首略を。宗。と。く。潜。あう。を。よ。と。ト。る。明日。真。ふ。黄道吉日。よ。う。そ。婚入を  
相兼。と。翌。の。宵。亥。中の。比及。よ。つ。と。莊官の宿所。よ。起。竊。よ。新婦人。と。迎。ぐ。  
下。か。て。日。を。歷。く。婚縁の免許を。詣。と。も。遼。な。よ。あ。と。き。と。此俗。よ。り。ふ。容  
ぎ。よ。め。分の新婦。よ。と。ハ。そ。う。衣裳調度。よ。と。ハ。當坐。當要の物。成。と。翌。の。黃昏。ふ。む。  
ら。ぐ。この。麌。成。疾。傳。く。あ。う。る。ま。か。く。ま。ん。せ。と。叮。嚙。小。示。さ。ま。く。う。れ。め。  
の。脅。ふ。故。障。あ。と。独。和。敵。の。う。の。あ。と。伐。柯。く。る。某。え。よ。腹。を。切。う。り。  
外。へ。う。か。と。ハ。當。晚。の。勤。盃。ハ。首。略。ふ。後。よ。新。婦。人。を。乗。は。轎。子。へ。形。の。如。く。

准備。時刻を違へべく。とひづて推辭。仰うけあつてひぬさゞきあま  
ま火急。濱路がそとまぐかてまぐや量多くへだ装ひもせだ化粧でも。  
厭ひまふ。ハとゆかくも仕しんと美引く退出す。今度濱路が迷ひよ  
悉く。やドとり。福轉。禍一家。及び。安々。ハ只。ことを。あん第  
且彼死しゆゑ。あらへて又え。とり。バ。龜條。うち。点院。莊官の女兒でも。  
陣代殿を督ふ。まよ。バ。綺羅も調度も。かよ。超。物の役女。の。変がえ。  
と豫。こなべ。こよ。亦。肩福病。ぐ。ゆ。す。督殿の性急。本残の役う  
め。よ。今。今。今。濱路が。納。ゆ。ま。死。款。ゆ。り。と。や。已。よ。が。賺。  
る。成ら。ゆ。か。死。亦。云。小威。ま。と。耳語。バ。墓六。あ。と。死。累。そ。ひ。り  
れ。ま。の。胸。よ。あ。と。ゆ。れ。ゆ。と。そ。が。ハ。龜條。へ。こ。う。る。果。く。濱路。が。臥房へ  
起。れ。う。さ。あ。宿。は。濱路。ハ。信。乃。が。ふ。ま。との。ま。う。ハ。胸。ゆ。結。ま。く。臥房。ど。う。く。み  
夏の日も。こ。が。弟。ひ。の。秋の暮。心悲。く。も。磬。蟬。の。鳴。音。立。限。腰。屏。風。  
臥。く。又。起。く。又。又。要。時。小。横。ふ。か。れ。て。を。り。浩。如。よ。龜。條。ち。障。子。を  
こ。ら。り。と。引。用。く。濱路。が。ほ。う。り。よ。進。よ。り。土。用。う。う。が。ふ。何。ゆ。ぞ。斯。無。罷。て  
な。ま。う。お。え。心。つ。れ。ま。き。ゆ。の。ど。も。や。と。ひ。り。顔。を。ま。う。歌。れ。濱路。ハ。是。ま。と。  
もう。よ。ま。食。る。ハ。り。あ。ま。き。三。一。好。好。れ。れ。お。あ。よ。が。何。ゆ。ま。と。進。下。せ。ん。生。平  
東。嗜。日。ぬ。酒。く。と。も。か。る。折。え。葉。よ。ゆ。り。氣。絶。深。す。よ。志。あ。ん。ど。や。信。乃。が。起  
む。と。う。り。ふ。頭。あ。づ。ま。ん。方。の。病。著。あ。う。休。る。隙。も。う。う。れ。ど。も。嚮。よ  
る。よ。う。湯。液。の。效。の。あ。づ。ま。く。飲。大。き。あ。う。色。ゆ。う。か。て。ハ。翌。六。瘡。足  
良。ん。ま。て。の。病。頗。ひ。ハ。そ。の。四。より。度。す。も。多。か。り。吾。倚。ハ。醫。師。ま。う。候。だ。そ。の  
病。症。を。猜。一。た。う。そ。人。す。く。人。小。あ。づ。ぬ。信。乃。が。店。よ。あ。う。る。な。う。ん。さ。で。ハ

轎のからむきを片あらひゆて仕事あま。送ふ稚かう一時。ひ名づけもあたふ  
あと従どりふせん渠を親の横死を恨み。年來大人を。墓六を。仇と窓へ。  
心ふ刃を磨ぐと久し。その大惡心漸發覺て人をもぞく隨ふ里の衆人ふ  
疎れ。大塚の住ひ叶を許我へ。と偽り。宴へ逐電あつる。さよよ  
より前夜よ神宮河あら游舟。竊よ大人を突落。そめ身も續く跳  
入ア推沈んと一つとも。楫取の資ふよ。大人ハ恙あり。とぞ。あふ鄙言ふ  
ひ行がの駄賃とすんみあらん。母がりふと虚言疑へ額巻が。  
還ぶ渠よ同身骨肉の伯母恩高。伯母夫よ弓を矢。さる鳴呼の癡  
者ガ。やど一宵も俱寐せぬ。その名をも。つゆく名づく虎  
狼よももうて。偽夫よ操を立病頗々二親よ苦勞を被るを貞女と  
いはん。やの道程を辨へ。疾者の絶え。彼畜生よ百倍見あぐれ。

美男子ふ遣嫁せん。あん男よ。告げ。その背がハ別人あま。いぬ  
月お宿せ。陣代。殿上宮六。本日あん男ふ懸相。相応。一親の男を  
厭ふ。枉くちん身を娶ん。媒妁をりく。せよひ。その媒妁も歴く。  
属役の軍木ぬ。その身上の輕重ハ。彼挑灯と洪鐘。あま。熟淡。あま。  
一家の僥倖。よ。年波の二親。あま。宿。あま。あん男が孝行。否。と。いふ。も  
あま。ねど。父。よ。昔人氣質。も。あん男の胸を揣。も。憎。と。いふ。も。信乃も  
よ。此彼よ遠慮。く。再三。辭退。あま。も。信乃が逐電。も。つ。の。い。や。告。の。の  
あま。軍木ぬ。よ。弥の催促。今へ脱。路も。已。と。成。ぬ。と。け。引。足。ハ。婚姻へ  
近。あま。こ。と。よ。就く。も。この病。著。を。と。く。寝。り。と。二親の心。ば。休。へ。ま。え。い。  
今。の。世。よ。く。二。才。児。で。も。慾。を。あ。く。ね。ハ。あ。た。の。を。あ。く。後。悔。を。あ。ふ。な。と。辞  
巧。よ。く。ら。あ。れ。ハ。濱。路。ハ。忽。地。騰。ほ。ま。く。堪。き。や。よ。と。泣。沈。む。胸。も。板。屋。の。玉。霞

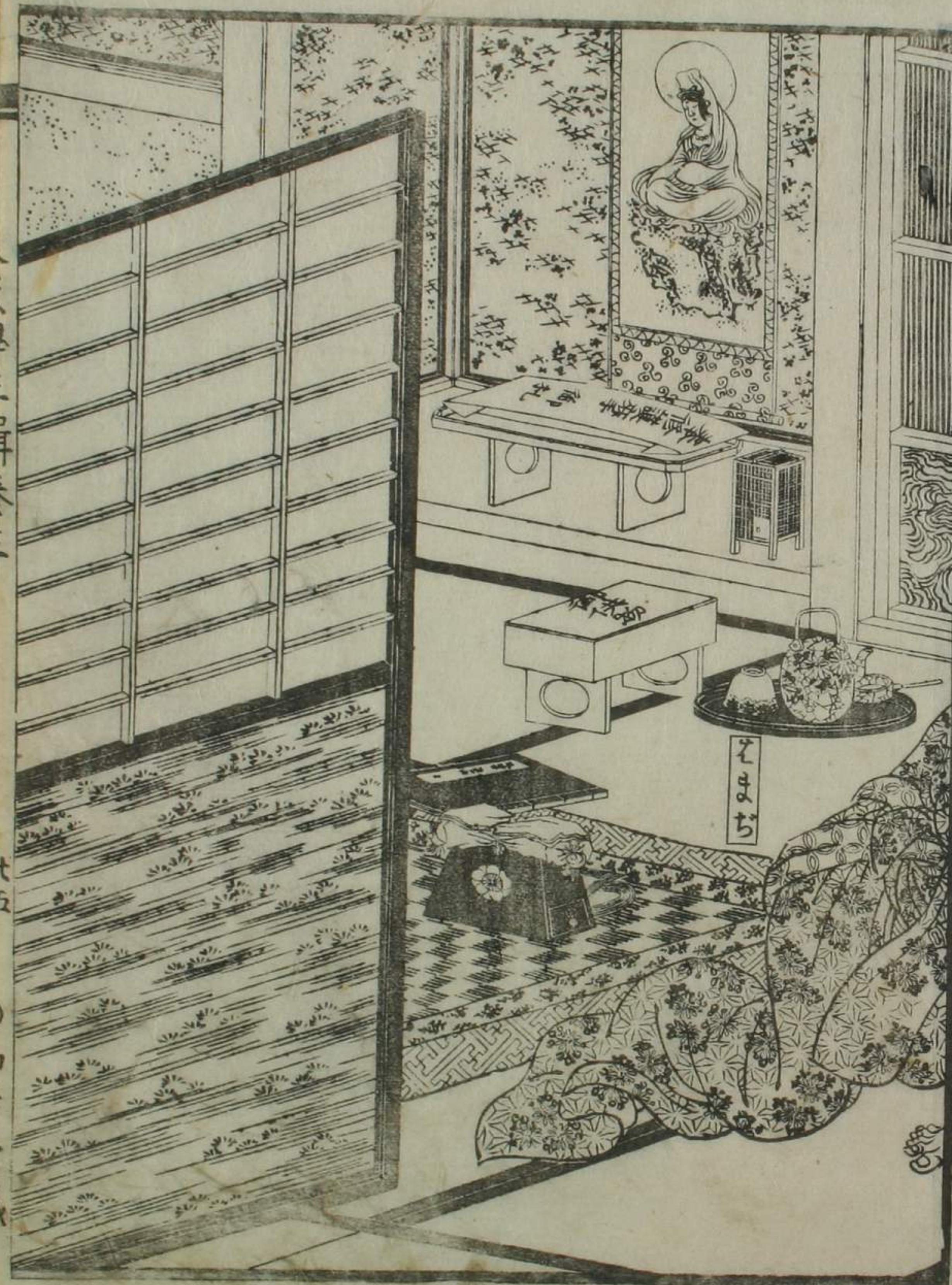
碎る。又小降。海の兩小乾ぬ袖の朽。朽よ。良人。何濡衣を被せ。而  
へれい。釋人と隻糸の弱る。又。子代激しく。かく。小頭を撓。寔ふ。ひうけ。  
うち。仇結び。又。婚縁。あく。うるさく。ゆう。と。そぞり。やう。う。親の。ゆ。う。ぬ。ふ  
かく。不孝。よ。ふ。人の子の道。う。と。叱。せ。う。の。欲。あ。ど。ゆ。う。と。そ。代。推辞。が  
も。親の。う。め。子。う。の。う。よ。う。あ。ん。犬塚。を。あ。う。ふ。宣。を。う。へ。舊。怨。忘。れ  
え。ぬ。ち。ん。疑。ひ。の。解。ぬ。或。ひ。小。待。べ。十年。小。近。く。彼。人。と。む。ろ。宿。り。小。生。二。月。  
か。ど。只。二。が。小。疎。略。き。進。止。ひ。き。ふ。の。惡。心。あ。ま。と。六。尺。も。仰。き。む。と。ら。宿。り。小。す。  
め。う。こ。う。が。あ。う。ぬ。彼。人。の。中。心。を。一。家。小。あ。う。ぬ。人。が。そ。う。り。う。よ。う。あ。う。ん。や。  
そ。が。怨。あ。う。ぬ。諛。言。小。侍。め。う。さ。う。人。あ。う。二。が。この。内。こ。ろ。小。稱。そ。と。追。遣。ひ  
う。と。も。一。旦。結。び。一。縁。一。あ。ま。ぶ。こ。う。が。あ。ふ。夫。と。り。ふ。ぬ。犬。塚。の。外。ふ。う。又  
彼。人。ハ。故。あ。う。く。よ。や。逐。電。あ。う。く。も。離。別。状。を。タ。ク。ト。ぐ。他。一。夫。小。見。え。あ。バ。

其。を。密。夫。か。ゆ。う。だ。や。又。淫。婦。又。ゆ。う。だ。や。譬。言。バ。親。の。仰。え。と。も。夫。婦。の。道。ハ。殊。  
さ。う。ふ。重。先。が。う。の。小。夜。衣。つ。ま。代。か。う。ふ。と。雄。が。う。よ。不。美。の。富。多。代。樂。ふ。死。  
妻。く。職。祿。を。ま。讓。ら。ん。と。宣。ハ。セ。ー。ト。ハ。親。の。内。こ。ろ。一。つ。小。侍。う。ぐ。里。の。衆。人  
き。も。媒。約。一。う。證。据。ハ。夥。あ。ふ。あ。ま。ど。や。かれ。ば。り。ま。ど。婚。姻。せ。だ。と。も。夫。婦。を。う。く。と。雄  
え。り。う。ん。大。塚。め。が。離。別。状。を。あ。う。う。遞。与。ー。ま。で。モ。親。の。仰。み。往。ひ。ぐ。ー。許  
さ。せ。ま。と。理。を。推。ー。く。い。も。怜。憐。く。ひ。う。と。ー。雄。く。ー。れ。言。葉。の。露。の。玉。小。親。の  
い。う。く。威。光。き。け。か。よ。て。龜。條。ハ。一。句。も。牛。モ。腹。う。ち。立。く。嘆。く。の。せ。ん。と。べ。な。ず。ゲ。よ  
見。え。ー。ぶ。外。回。又。竊。聞。あ。う。墓。六。ハ。衝。と。進。ミ。入。て。妻。の。ほ。ど。り。小。磯。と。坐。一。潜。  
然。う。く。眞。う。ち。か。龜。條。何。や。室。不。あ。や。よ。濱。路。親。恥。ー。れ。ち。ん。才。う。貞。實。彼。丸  
め。く。つ。ま。小。侍。め。愁。あ。う。る。う。い。ひ。出。さ。ー。く。母。ハ。ま。ま。え。られ。も。亦。後。悔。う。ふ。立。さ。う。ん。老

八犬傳三輯卷三

自殺を  
示すと  
六濱と  
賺と  
墓路

龜さ



七五

徒ひゆべ。とのぶゆ涙ようち墨まる声を飲てぞ伏沈む志を失へる。と墓六へ含  
 笑々龜條目を注ぐ刃を納め披毛一袖を合そひ浮雲たるやと龜條ハ  
 夫のほろ立てるにて泣沈もる濱路が背を搔拊又湯劑を勧めく子  
 少め求めのあり自よ不向若も阿諛の言ふ巧よ慰めけりかく二親送代よ  
 よももえびす  
 通宵音病あらへ死んとひ決めう。濱路ハ絶て便りをぬぞうち護  
 らとく夜を曉せば十九日ふたりふたり。それば今宵ハ骨殿の諸事あふと  
 かき主の蔭詰ひ誇らう。奴婢が口みへ用らきぬ戸障子の拭掃除釘よ  
 紙と罵りく粘を搗音。鉄槌の打が響音くと譬言ふ違ひ。濱路ハ必ず洩れて  
 こハ浅やくや今宵の事を。こゑみへ二親の隠一多ハ出抜てその替烟の盃と  
 どう結せんるあべ。どもかくとも存命く仇一夫は伴せ。と豫て之へハあらくよ。  
 うちも騒がでけか梢快な面色。奈シ一髪を搔拊。臥房の内に仕合ひ  
 こりふ濱路が臥房ふ立つゝ。その姿不見向慰め。みづ結髪せしを乍ら  
 心の中竊々歎び。原来今宵の晩入をやどきとせ愁ひも洩ゆく。渠あらまち  
 まゆやあんちがひの辞よ似げあた。寔是よ少女どろぞう。かてとひよく  
 後半と。とゞ、丈夫の密語もぞ暮六も亦教ひ。転く臥房よひやてて下りふ。  
 視くう揚る束髪。西施が病る風情あり。化粧ぬ夏の富士額。ハヨク子す  
 らふ見あがう。二國一の晩入をあざき。ともの期す。告びもあんと深  
 い。おとよを。おとよを。おとよを。おとよを。おとよを。おとよを。おとよを。  
 念る他。ふ紛く又外面走り去。彼ハをせよ。余ハこれせよ。罵りく又焦  
 も。おとよを。せあつ。めおとよを。おとよを。  
 燥く人拂う。譴使く眼口。暇ありけり。

里見八犬傳第三輯卷之三終

